



慈恵大師良源のドクロが埋葬された塚?

今は昔、一関市厳美町本寺地区は骨寺村と呼ばれる中尊寺の荘園でした。

「鎔懸」と呼ばれる荘園の東の境近くに逆柴山というお山がありまして、その頂付近には石の祠が載った積石塚がひっそりとたたずんでいます。辺り一面は茂みに覆われ、風が吹けばざわざわと木立が揺れる神秘的な空間です（現在は調査のため、かなり草木が刈り取られてありますが・・・）。

この積石塚には次のような伝説が残っています。

骨寺村に住む豪族の娘が天井裏のドクロから法華経を習い、それが成就したあと、ドクロを逆柴山まで運び埋めた場所がこの塚だということです。そしてこのドクロの正体―天台宗の高僧として名高い慈恵大師良源さん、ということによって彼の名をとり「慈恵塚」と呼ばれるようになったようです。

しかし、この慈恵塚が祀られた背景にはもうひとつ理由があります。鎌倉時代に作られた荘園絵図、

『陸奥国骨寺村絵図』の中に「馬坂新道」という道が描かれています。現在調査中ですが、慈恵塚を経由して中尊寺まで通じていたと考えられる道です。

その絵図を読み解いてみましょう。

平安時代の終わり頃、骨寺村には磐井川沿いの大変危険な道しか通っていませんでした。そこに天台宗の聖たちが村にやって来て、法華経を広めながら水田や道路の開発を行う中で、馬も通れる安全



慈恵塚に上る道の途中  
後ろを振り返ると!

で広い道、馬坂新道を造ったと考えられます。

ですから慈恵塚は、大変苦勞しながらも村のために立派な道路を開削した天台の聖たちに関わる塚なのでは?と考える方もいるようです。

そんなミラクルな業績を残した聖たちを、超能力の持ち主として知られた天台宗中興の祖・慈恵大師に見立て、「ドクロ伝説」が生まれたのかもしれない。

「昔はこんな道を通ってお米を運んだのかなあ」と思いを巡らせ慈恵塚に向かいます。途中後ろを振り返ると、目に飛び込んできたのは、まるで絵ハガキのように美しい栗駒山と荘園風景。耳を澄ませばつくいますが「ホー・ホケキョウ」と鳴いています。